

検 定 意 見 書

15 枚中 1 枚目

| 受理番号 26-127 | | 学校 高等学校 | | 教科 農業 | 種目 農業と環境 | 学年 |
|-------------|-----------|---------------|--|--|----------|----|
| 番号 | 指摘箇所 | | 指摘事項 | 指摘事由 | 検定基準 | |
| | ページ | 行 | | | | |
| 1 | カラー 2 | 中段 | {8} アフリカ北部, セネガル | 不正確である。 (アフリカ北部) | 3-(1) | |
| 2 | カラー 3 | 下段 | {子実の形成1} 写真, 開花日の小穂の中。 | 生徒にとって理解し難い表現, 写真である。 (開花日の子房の大きさとして理解し難い。) | 3-(3) | |
| 3 | カラー 9 | 中段 | {イネとタイヌビエの違い} 葉耳の指示位置 | 不正確である。 (葉耳の指示位置) | 3-(1) | |
| 4 | カラー 9 | 下段 | 地下茎で繁殖する | 不正確である。 (地下茎で繁殖する) | 3-(1) | |
| 5 | カラー 14 | 上段 | 「スギ, ヒノキなどの針葉樹とクヌギやナラなどの広葉樹とが7:3の割合で植えられ, 美しい独特の景観を生み出すモザイク林相。(宮崎県諸塚村)」の指示位置 | 生徒が誤解するおそれのある図である。 (自然林の説明と誤解する。) | 3-(3) | |
| 6 | カラー 14 | 上段 | 「自然に近い状態への復活をめざした多自然川づくり(神奈川県大和市, 引地川)」の指示位置 | 生徒が誤解するおそれのある図である。 (二次林の説明と誤解する。) | 3-(3) | |
| 7 | カラー 14 | 中段 | 自然林 224ページ8行 天然林 | 表記が不統一である。 | 3-(4) | |
| 8 | カラー 14 | 下段 | 家畜のえさからバイオマスエネルギー利用への矢印 | 生徒にとって理解し難い図である。 (家畜のえさからバイオマスエネルギー利用への矢印) | 3-(3) | |
| 9 | 6 | 側注1 | 主食とする穀物は, …アメリカや中南米ではトウモロコシ | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 (アメリカで主食とする穀物がトウモロコシと誤解する。) | 3-(3) | |
| 10 | 7 | 15 - 16 | メソポタミア(現在のイランの一部) | 誤りである。 (イラン) | 3-(1) | |

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

15 枚中 2 枚目

| 受理番号 26-127 | | 学校 高等学校 | 教科 農業 | 種目 農業と環境 | 学年 |
|-------------|------|---------------|--|--|-------|
| 番号 | 指摘箇所 | | 指摘事項 | 指摘事由 | 検定基準 |
| | ページ | 行 | | | |
| 11 | 7 | 図2 | 強酸性でアルミニウム濃度の高いかん木・草地を開発した。 | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 (かん木が強酸性でアルミニウム濃度が高いと誤解する。) | 3-(3) |
| 12 | 11 | 図6 | 小麦のデータ カロリー基準 | 不正確である。 (小麦の輸入のデータ, カロリー基準) | 3-(1) |
| 13 | 17 | 13 - 14 | 自分たちの住む地域農業の具体的な事例を通して, | 生徒にとって理解し難い表現である。 (「自分たちの住む地域農業」が理解し難い。) | 3-(3) |
| 14 | 20 | 15 - 16 | ヨコバイやウンカなどの昆虫類がイネの茎や葉を食べる。 | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 (ヨコバイやウンカが茎や葉を食べると誤解する。) | 3-(3) |
| 15 | 20 | 図4 | 植物から植物プランクトンへの矢印 | 生徒にとって理解し難い図である。 (植物から植物プランクトンへの矢印が理解し難い。) | 3-(3) |
| 16 | 21 | 15 | 生物体の水分は気体となって蒸発する | 生徒にとって理解し難い表現である。 (「生物体の水分は気体となって蒸発する」が理解し難い。) | 3-(3) |
| 17 | 21 | 図5 | アゾントバクター 根粒菌からの矢印 | 不正確である。 (アゾントバクター, 根粒菌からの矢印) | 3-(1) |
| 18 | 22 | 側注2 | 世界で初めて開発された当時の自動車の燃料は、植物由来のバイオエタノールやバイオディーゼルだった。 | 不正確である。 (世界で初めて開発された当時の自動車) | 3-(1) |
| 19 | 24 | 図3 | {縦軸} 収量面積 | 誤記である。 | 3-(2) |
| 20 | 24 | 図4 | 栄養不足の人口の割合のデータ | 誤りである。 (パラグアイ, モーリタニア・イスラム共和国, ウズベキスタンのデータ) | 3-(1) |

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

15 枚中 3 枚目

| 受理番号 26-127 | | 学校 高等学校 | | 教科 農業 | | 種目 農業と環境 | | 学年 | |
|-------------|------|-------------|---|--|--------|----------|--|----|--|
| 番号 | 指摘箇所 | | 指摘事項 | 指摘事由 | 検定基準 | | | | |
| | ページ | 行 | | | | | | | |
| 21 | 24 | 側注3 | IFAP | 誤記である。 | 3-(2) | | | | |
| 22 | 25 | 図5 | 気温のグラフ 気温の縦軸の値 | 不正確である。 (気温のグラフの傾き, 気温の縦軸の値) | 3-(1) | | | | |
| 23 | 27 | 調べてみよう | アムステルダム | 誤りである。 (アムステルダム) | 3-(1) | | | | |
| 24 | 28 | 図1 | 気温, 降水量のデータ | 誤りである。 (ニューヨーク, サンパウロのデータ) | 3-(1) | | | | |
| 25 | 29 | 11 | 日本の森林率は68% (表2 日本) 69 | 相互の関連が適切でない。 (両者の値が異なっている。) | 2-(11) | | | | |
| 26 | 30 | 2 - 5 | 日本の総就業人口6257万人のうち, 農業就業人口は約4.2%の261万人である(表3)。農業就業人口率は, 先進国なみであるが, 全世界の割合43%に比べるときわめて低い(表4)。 | 相互の関連が適切でない。 (「農業就業人口は約4.2%」, 表4の日本の割合2%, 「全世界の割合43%」, 表4に全世界の数値がない。) | 2-(11) | | | | |
| | | | 31ページ表4 | | | | | | |
| 27 | 30 | 図2 | 29歳以下のデータ | 誤りである。 (4%) | 3-(1) | | | | |
| 28 | 30 | 表3 | {2010} 第1種兼業農家のデータ | 誤りである。 (23) | 3-(1) | | | | |
| 29 | 31 | 側注3 | 沖縄の水田率は20% | 誤りである。 (20%) | 3-(1) | | | | |

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

15 枚中 4 枚目

| 受理番号 26-127 | | 学校 高等学校 | 教科 農業 | 種目 農業と環境 | 学年 |
|-------------|------|---------------|---|--|-------|
| 番号 | 指摘箇所 | | 指摘事項 | 指摘事由 | 検定基準 |
| | ページ | 行 | | | |
| 30 | 31 | 図3 | 農業生産法人数のデータ | 誤りである。 (各年次のデータ) | 3-(1) |
| 31 | 31 | 表4 | 農業人口の割合のデータ | 誤りである。 (ブラジル, エジプト, インドのデータ) | 3-(1) |
| 32 | 32 | 図6 | 玄米収量のデータ | 誤りである。 (1955年~1959年のデータ) | 3-(1) |
| 33 | 33 | 側注1 | 水稻など1種類の作物を栽培する単作に対し、水稻-小麦-大豆など、複数の作物を栽培していくこと。 | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 (単作の対義語が輪作と誤解する。) | 3-(3) |
| 34 | 33 | 図8 | メタンガスから水田への矢印 | 生徒にとって理解し難い図である。 (メタンガスから水田への矢印が理解し難い。) | 3-(3) |
| 35 | 34 | 17 - 18 | 会員制事業である生協 | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 (生協について誤解する。) | 3-(3) |
| 36 | 34 | 図10 | 食料消費の用途別支出割合のデータ | 誤りである。 (2010年のデータ) | 3-(1) |
| 37 | 35 | 10 | 農産物生産管理工程 (GAP) | 誤りである。 (農産物生産管理工程) | 3-(1) |
| 38 | 36 | 4 | 3年以上 | 不正確である。 (3年以上) | 3-(1) |
| 39 | 36 | 側注1 | 約20万人 | 誤りである。 (人) | 3-(1) |

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

15 枚中 5 枚目

| 受理番号 26-127 | | 学校 高等学校 | 教科 農業 | 種目 農業と環境 | 学年 |
|-------------|------|---------|--|--|-------|
| 番号 | 指摘箇所 | | 指 摘 事 項 | 指 摘 事 由 | 検定基準 |
| | ページ | 行 | | | |
| 40 | 36 | 図14 (b) | オオムギ {写真の中} 大麦 | 表記が不統一である。 | 3-(4) |
| 41 | 38 | 側注1 | t/km | 誤りである。 (t/km) | 3-(1) |
| 42 | 39 | 11 | 水源をかん養して 側注1 水が土壌にゆっくりと染み込んでいくこと。 | 生徒にとって理解し難い表現である。 (「水源をかん養して」に側注1の意味は理解し難い。) | 3-(3) |
| 43 | 44 | 8 | 農文化 | 誤記である。 | 3-(2) |
| 44 | 44 | 側注1 | 阿蘇の草原維持と持続農業 | 不正確である。 (阿蘇の草原維持と持続農業) | 3-(1) |
| 45 | 44 | 側注1 | クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環地域 | 不正確である。 (クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環地域) | 3-(1) |
| 46 | 46 | 図1 | 火と家畜エネルギー 薪炭・水車・風車・畜力エネルギー | 表記が不統一である。 | 3-(4) |
| 47 | 47 | 脚注1 | 具体的には、…廃棄物の焼却熱利用・発電などのリサイクルエネルギーを指す。 | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全てのリサイクルエネルギーが再生可能なエネルギーに含まれると誤解する。) | 3-(3) |
| 48 | 47 | 側注3 | 石油に換算すると年間約3,500万kLものバイオマス資源があると推計されている。 | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 (石油に換算するとバイオマス総生産量が年間約3,500万kLと誤解する。) | 3-(3) |
| 49 | 48 | 5 | 2050年には95億 | 誤りである。 (95億) | 3-(1) |

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

15 枚中 6 枚目

| 受理番号 26-127 | | 学校 高等学校 | 教科 農業 | 種目 農業と環境 | 学年 |
|-------------|------|---------------|--|--|-------|
| 番号 | 指摘箇所 | | 指摘事項 | 指摘事由 | 検定基準 |
| | ページ | 行 | | | |
| 50 | 48 | 図3 | 木質製品など | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 (木質製品を直接バイオマス発電に利用すると誤解する。) | 3-(3) |
| 51 | 50 | 6 - 8 | 食料生産にかかわる技術と知識をもつ人は、日本の総人口のわずか2.6%しかおらず、そのうちの約64%が65歳以上の高齢者である(2014年)。 | 不正確である。 (「食料生産にかかわる技術と知識をもつ人は、日本の総人口のわずか2.6%しかおらず、そのうちの約64%が65歳以上の高齢者である(2014年)」) | 3-(1) |
| 52 | 55 | 表2 | APGⅢによると、…アスバラガスはクサスギカズラ科 | 誤りである。 (クサスギカズラ科) | 3-(1) |
| 53 | 55 | 側注1 | Phyrogeny | 誤記である。 | 3-(2) |
| 54 | 56 | 3 - 4 | 作物以外の植物(雑草)の過繁茂や害虫・病気から守る。 | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 (過繁茂の意味を誤解する。) | 3-(3) |
| 55 | 65 | 図16 | 雌しべの指示範囲と柱頭、花柱、子房、胚のう、胚珠の記載位置 | 生徒が誤解するおそれのある図である。 (雌しべ、子房、胚珠、胚のうの関係を誤解する。) | 3-(3) |
| 56 | 66 | 21 | 人工受粉 | 誤記である。 | 3-(2) |
| 57 | 67 | 20 | イネでは収穫後、たね粉を乾燥し、粉から玄米をとり出す | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 (たね粉を玄米にすると誤解する。) | 3-(3) |
| 58 | 67 | 25 - 26 | 収穫後に収穫物に対して行われる作業をポストハーベスト(収穫後)技術という。 | 生徒にとって理解し難い表現である。 (「作業を…技術という」が理解し難い。) | 3-(3) |
| 59 | 70 | 2 - 3 | 農地で栽培される作物の種類や栽培順序の体系を作付体系という。 | 不正確である。 (作付体系の説明) | 3-(1) |

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

15 枚中 7 枚目

| 受理番号 26-127 | | 学校 高等学校 | 教科 農業 | 種目 農業と環境 | 学年 |
|-------------|------|---------------|--|---|--------|
| 番号 | 指摘箇所 | | 指摘事項 | 指摘事由 | 検定基準 |
| | ページ | 行 | | | |
| 60 | 70 | 19 - 20 | 一つの作物で、栽培時期や方法の違う作付体系を作型という | 不正確である。 (作型の説明) | 3-(1) |
| 61 | 72 | 図4 | 出芽 161ページ13行 ほう芽 | 表記が不統一である。 | 3-(4) |
| 62 | 74 | 10 | 補償点 図8 補償点 | 不正確である。 (補償点) | 3-(1) |
| 63 | 75 | 6 | 大気中の二酸化炭素濃度は平均で0.037% 25ページ図5 二酸化炭素濃度 | 相互の関連が適切でない。 (両者の値が異なっている。) | 2-(11) |
| 64 | 77 | 図15 | 図全体 77ページ27行 粒子の直径が0.002mm以下のものを粘土 | 不正確である。 (農学会法の区分と国際土壌学会法の区分が混在) | 3-(1) |
| 65 | 77 | 図15 | 砂を含む量 (%) 粘土を含む量 (%) | 生徒にとって理解し難い表現である。 (量を%で示すことが理解し難い。) | 3-(3) |
| 66 | 78 | 1 | 腐植は土壌有機物ともいわれる。 | 生徒にとって理解し難い表現である。 (腐植と土壌有機物の関係が理解し難い。) | 3-(3) |
| 67 | 80 | 13 - 14 | 酸性土を中性に改善する | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 (酸性土は全て中性にする必要があると誤解する。) | 3-(3) |
| 68 | 82 | 表4 | {リン} 濃緑色 | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 (葉色が濃くなると誤解する。) | 3-(3) |
| 69 | 84 | 27 - 28 | 根粒菌は、空気中の窒素を作物が利用できる形にかえて供給している | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全ての作物に供給していると誤解する。) | 3-(3) |

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

15 枚中 8 枚目

| 受理番号 26-127 | | 学校 高等学校 | 教科 農業 | 種目 農業と環境 | 学年 |
|-------------|------|---------------|---|---|--------|
| 番号 | 指摘箇所 | | 指摘事項 | 指摘事由 | 検定基準 |
| | ページ | 行 | | | |
| 70 | 84 | 側注1 | 捕食者 17行 消費者 | 表記が不統一である。 | 3-(4) |
| 71 | 84 | 側注2 | ある生物群集で、生物種が多く、数量的にも豊かで、バランスが保たれた状態をいう。 | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 (生物多様性にはバランスが保たれる必要があると誤解する。) | 3-(3) |
| 72 | 89 | 表7 | {水田雑草 一年生 太字} アゼナ (ゴマノハグサ科) 注. 太字の雑草については、カラーページ9・10を参照。 | 相互の関連が適切でない。 (アゼナはカラーページ9・10にない。) | 2-(11) |
| 73 | 89 | 表7 | {水田雑草 一年生} タコウギ | 誤りである。 (タコウギ) | 3-(1) |
| 74 | 90 | 13 | 電気柵 | 生徒にとって理解し難い表現である。 (電気柵についての安全面での注意事項の記載がなく理解し難い。) | 3-(3) |
| 75 | 91 | 図42 | {予防的管理} 発生後 病害虫に強い作物を育てる | 生徒にとって理解し難い図である。 (「発生後」と「病害虫に強い作物を育てる」との関係が理解し難い。) | 3-(3) |
| 76 | 93 | 8 | 卵の生産 (産卵鶏) 190ページ表1 {生育などの過程} 産卵鶏 | 生徒にとって理解し難い表現である。 (両者の意味が異なり理解し難い。) | 3-(3) |
| 77 | 94 | 11 - 12 | ほ乳類では、性成熟期を迎えると、雌は周期的に雄との交配が可能な状態になる (発情)。 | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 (92ページ図1の全てのほ乳類に当てはまると誤解する。) | 3-(3) |
| 78 | 95 | 図5 | 図のデータ | 不正確である。 (飼料の供給量、国産と輸入の割合のデータ) | 3-(1) |
| 79 | 97 | 2 - 3 | 無窓型畜舎 3行 無窓畜舎 図9 無窓型畜舎 | 表記が不統一である。 | 3-(4) |

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

15 枚中 9 枚目

| 受理番号 26-127 | | 学校 高等学校 | 教科 農業 | 種目 農業と環境 | 学年 |
|-------------|------|---------------|---|--|--------|
| 番号 | 指摘箇所 | | 指摘事項 | 指摘事由 | 検定基準 |
| | ページ | 行 | | | |
| 80 | 98 | 図13 | {中央} 排せつ物 {右} 排せつ物・尿など | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 (排せつ物しか出ない及び排せつ物に尿は含まれないと誤解する。) | 3-(3) |
| 81 | 99 | 11 - 13 | 諸外国からの畜産物の輸入量は、2000～2004年にかけて大きく変動するなど、畜産をめぐる環境はつねに変化している(図16)。 図16 | 相互の関連が適切でない。 (図16に2000～2002年のデータがない。) | 2-(11) |
| 82 | 100 | 20 - 21 | いちばん遅く家畜化されたといわれるウマ | 不正確である。 (いちばん遅く) | 3-(1) |
| 83 | 105 | 図4(a) b) | 第3葉、第4葉の図 | 生徒が誤解するおそれのある図である。 (第3葉に葉身が3枚、第4葉に葉身が2枚あると誤解する。) | 3-(3) |
| 84 | 110 | 8 - 10 | 10aあたり100kgの玄米を生産するためには、おおよそ、窒素2.5kg、リン酸1.0kg、カリ2.3kgを必要とする(表3)。 表3 | 相互の関連が適切でない。 (表3は10aあたり100kgの玄米を生産するのに必要な養分量ではない。) | 2-(11) |
| 85 | 110 | 10 - 11 | 天然供給 図11 天然供給量(2か所) | 表記が不統一である。 | 3-(4) |
| 86 | 110 | 表3 | {窒素 合計} 3～4 | 誤りである。 (3～4) | 3-(1) |
| 87 | 112 | 13 - 17 | 出穂の20～15日前から出穂までの期間を穂ばらみ期という。えい花ができる頃(えい花分化期)や、穂ばらみ期の初めの頃(減数分裂期)に、17℃以下の低温にあうと冷害を受け、収量や品質が著しく低下する。低温が予想される場合には、穂ばらみ期から出穂・開花の期間は10cmくらいの深水にして、水の保温力を利用した管理をする。 | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 (穂ばらみ期、減数分裂期、えい花分化期の関係を誤解する。) | 3-(3) |
| 88 | 112 | 図16 | 幼穂分化期 幼穂発育期(出穂前32～20日) 穂ばらみ期(穂が急速に伸びる) | 生徒が誤解するおそれのある図である。 (幼穂分化期、幼穂発育期、穂ばらみ期の関係を誤解する。) | 3-(3) |

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

15 枚中 10 枚目

| 受理番号 26-127 | | 学校 高等学校 | 教科 農業 | 種目 農業と環境 | 学年 |
|-------------|------|---------------|--|--|--------|
| 番号 | 指摘箇所 | | 指摘事項 | 指摘事由 | 検定基準 |
| | ページ | 行 | | | |
| 89 | 113 | 観察 | 写真 | 生徒が誤解するおそれのある写真である。 (葉鞘をていねいにはぐと写真のような幼穂が見えると誤解する。) | 3-(3) |
| 90 | 119 | 表1 | 作業区分 | 生徒にとって理解し難い表現である。 (作業区分) | 3-(3) |
| 91 | 123 | 側注1 | 子実トウモロコシの多くは海外から輸入され、その量は1,440万t(2013年)、このうち約65%が飼料用である。 | 誤りである。 (1440万t, 65%) | 3-(1) |
| 92 | 129 | 21 - 22 | シロイチモンジマダラメイガ | 誤記である。 | 3-(2) |
| 93 | 138 | 図2 | 第3花房収穫 143ページ15行 果房 | 生徒にとって理解し難い表現である。 (花房と果房の違いが理解し難い。) | 3-(3) |
| 94 | 139 | 8 | 葉は、葉へいとだ円形をした小葉7枚からできている。 138ページ図2 中央の図 | 相互に矛盾している。 (図2には小葉が9枚ある。) | 3-(1) |
| 95 | 139 | 11 | 葉3枚ごとに花房をつけ 図3 第1花房より3節ごとに発生 | 表記が不統一である。 | 3-(4) |
| 96 | 143 | 16 - 17 | 健康なよい苗を選び(図11)、 図11 | 相互の関連が適切でない。 (図11はよい苗の条件ではない。) | 2-(11) |
| 97 | 144 | 図15 | 胎座(種子がついている器官) | 不正確である。 (器官) | 3-(1) |
| 98 | 151 | 実習 | {②}粗漬けする。 {図中央}②荒漬け | 表記が不統一である。 | 3-(4) |

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

15 枚中 11 枚目

| 受理番号 26-127 | | 学校 高等学校 | | 教科 農業 | | 種目 農業と環境 | | 学年 | |
|-------------|------|---------------|---|--|-------|----------|--|----|--|
| 番号 | 指摘箇所 | | 指摘事項 | 指摘事由 | 検定基準 | | | | |
| | ページ | 行 | | | | | | | |
| 99 | 156 | 表2 | 表全体 157ページ15～17行 追肥は2回に分けて施す。1回目は、最後の間引きのあとに行い、2回目は、その15～20日後に行う | 生徒にとって理解し難い表である。 (表2の追肥(2回目)が他と異なり理解し難い。) | 3-(3) | | | | |
| | | | 155ページ表1 157ページ図11 | | | | | | |
| 100 | 163 | 14 - 15 | 幅70cm, 深さ10cmの植え溝をつくる。 | 生徒にとって理解し難い表現である。 (「幅70cm, 深さ10cmの植え溝をつくる。」が理解し難い。) | 3-(3) | | | | |
| 101 | 171 | 側注1 | 浴光を延ばし | 生徒にとって理解し難い表現である。 (「浴光を延ばし」が理解し難い。) | 3-(3) | | | | |
| 102 | 174 | 14 | サルビアは、原産地がブラジル 175ページ12～13行 サルビアには、 …ファリナセア種がある。 | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 (ファリナセア種の原産地がブラジルと誤解する。) | 3-(3) | | | | |
| 103 | 174 | 表1 | {二年草} オキアザミ | 誤記である。 | 3-(2) | | | | |
| 104 | 175 | 12 | スプレンドス | 誤記である。 | 3-(2) | | | | |
| 105 | 175 | 側注1 | さし芽を2～3cmの深さ 169ページ15行 さし穂を2～3cmの深さ | 表記が不統一である。 | 3-(4) | | | | |
| 106 | 175 | 表3 | {たねの大きさ 大粒} アスター | 誤りである。 (アスターは大粒ではない。) | 3-(1) | | | | |
| 107 | 191 | 図4 | 白色卵黄 黄色卵黄 | 不正確である。 (白色卵黄, 黄色卵黄) | 3-(1) | | | | |

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

15 枚中 12 枚目

| 受理番号 26-127 | | 学校 高等学校 | | 教科 農業 | | 種目 農業と環境 | | 学年 | |
|-------------|------|-------------|---|---|-------|----------|--|----|--|
| 番号 | 指摘箇所 | | 指摘事項 | 指摘事由 | 検定基準 | | | | |
| | ページ | 行 | | | | | | | |
| 108 | 193 | 17 | 1羽あたりの飼育面積（飼育密度，表4）が狭い | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 （1羽あたりの飼育面積を飼育密度と誤解する。） | 3-(3) | | | | |
| 109 | 193 | 表3 | ニワトリの成長と養分の必要量 成長段階 粗タンパク質総量（%） | 生徒にとって理解し難い表である。 （成長と成長段階の関係および粗タンパク質総量を%で示すことが理解し難い。） | 3-(3) | | | | |
| 110 | 198 | 12 | 農地を耕す鋤を引くなどの役畜 | 不正確である。 （鋤） | 3-(1) | | | | |
| 111 | 198 | 図1 | 誕生 2か月 育成 人工授精 14～16か月 199ページ4行 14～15か月齢前後に繁殖（交配） | 生徒にとって理解し難い図である。 （人工授精，繁殖（交配）までの月齢が異なり理解し難い。） | 3-(3) | | | | |
| 112 | 199 | 側注1 | 装置 | 誤記である。 | 3-(2) | | | | |
| 113 | 201 | 3 - 6 | 乳牛は，1日に20～30kgの飼料を食べ，45～54Lの水を飲み，約30kgの牛乳を出す（年間約9,000kg）。また，1日の排ふん量は約40kg，排尿量は約20kg | 生徒にとって理解し難い表現である。 （乳牛の牛乳，ふん，尿による水分排出量と飼料および飲水による水分摂取量の関係が理解し難い。） | 3-(3) | | | | |
| 114 | 202 | 9 | 血液中の成分を乳房内で合成して | 生徒にとって理解し難い表現である。 （「血液中の成分を乳房内で合成」が理解し難い。） | 3-(3) | | | | |
| 115 | 203 | 13 | 乳房内の健康診断を行う（図9）。 | 生徒にとって理解し難い表現である。 （「乳房内の健康診断」が理解し難い。） | 3-(3) | | | | |
| 116 | 212 | 右下表 | 緑地環境保存地域 | 不正確である。 （緑地環境保存地域） | 3-(1) | | | | |
| 117 | 216 | 図6 | 堤防道路わき（2か所） | 生徒にとって理解し難い図である。 （「堤防道路わき」が2か所あることが理解し難い。） | 3-(3) | | | | |

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

15 枚中 13 枚目

| 受理番号 26-127 | | 学校 高等学校 | | 教科 農業 | | 種目 農業と環境 | | 学年 | |
|-------------|------|---------------|---|--|-------|----------|--|----|--|
| 番号 | 指摘箇所 | | 指摘事項 | 指摘事由 | 検定基準 | | | | |
| | ページ | 行 | | | | | | | |
| 118 | 216 | 表2 | 解放水域 | 誤記である。 | 3-(2) | | | | |
| 119 | 218 | 14 - 15 | ツバメの初渡来日は、名古屋市では最近の25年間で約10日早くなっていることも報告されている | 誤記である。 (25年) | 3-(2) | | | | |
| 120 | 219 | 側注1 | 田んぼの生き物調査 | 誤記である。 | 3-(2) | | | | |
| 121 | 219 | 図10 | {水田} モノアライガイ | 誤記である。 | 3-(2) | | | | |
| 122 | 219 | 図10 | {水田} 水性ミミズ類 {水路} 水生ミミズ類 | 表記が不統一である。 | 3-(4) | | | | |
| 123 | 220 | 準備 | ケトン紙 | 誤記である。 | 3-(2) | | | | |
| 124 | 220 | 図② | {中央} 腐葉土壌などの試料 {下} 腐養土壌などの試料 | 表記が不統一である。 | 3-(4) | | | | |
| 125 | 224 | 側注1 | 人の手が加わらない自然のままに生育している状態。 | 生徒にとって理解し難い表現である。 (天然分布と「自然のままに生育している状態」の関係が理解し難い。) | 3-(3) | | | | |
| 126 | 228 | 方法 | {②} 胸高周囲長 {④} 胸高同囲長 | 表記が不統一である。 | 3-(4) | | | | |
| 127 | 237 | 図26 | 全体と河川の指示位置 | 不正確である。 (全体と河川の指示位置) | 3-(1) | | | | |

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

15 枚中 14 枚目

| 受理番号 26-127 | | 学校 高等学校 | | 教科 農業 | | 種目 農業と環境 | | 学年 | |
|-------------|------|---------|--|---|--------|----------|--|----|--|
| 番号 | 指摘箇所 | | 指摘事項 | 指摘事由 | 検定基準 | | | | |
| | ページ | 行 | | | | | | | |
| 128 | 238 | 20 | (3) 個体数の最も高い階級をその地点の水質階級と判定する。 241ページまとめ 採集した指標生物に○印を記入し、そのうち、上位2種類には●印をつける。(○印と●印の | 相互に矛盾している。 | 3-(1) | | | | |
| | | | 合計)と(●印の合計)を合計した値が最も多いところを水質階級として判定する。 | | | | | | |
| 129 | 245 | 図34 | 一酸化炭素 | 誤りである。 (一酸化炭素) | 3-(1) | | | | |
| 130 | 248 | 上段 | {準備} L学の金具 | 誤記である。 | 3-(2) | | | | |
| 131 | 248 | 下段 | {調査場所および調査地点の選定例(1)③} 森林, 山林 | 生徒にとって理解し難い表現である。 (森林と山林の違いが理解し難い。) | 3-(3) | | | | |
| 132 | 250 | まとめ | 1本の葉について20個の気孔の汚れの程度(汚れ度数)を合計し、5本の平均を計算する。 251ページ参考2 凡例の数字 5.0~4.1 ... 1.0~0 | 相互の関連が適切でない。 (250ページの計算では251ページの凡例の値にならない。) | 2-(11) | | | | |
| 133 | 251 | 参考1 | ベンツピレン | 生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。) | 3-(3) | | | | |
| 134 | 254 | 表1(b) | 国有林 林野庁が所管する約761万haがいわゆる国有林で、日本の森林面積の約30%を占める。このほかに、文部科学省などが所轄する6万haの森林がある。 | 生徒にとって理解し難い表現である。 (「国有林」, 「林野庁の所管するいわゆる国有林」, 「文部科学省などが所轄する森林」の関係が理解し難い。) | 3-(3) | | | | |
| 135 | 257 | 1 | ④ 森林の公益的機能 5~7行 私たちは森林からさまざまな恩恵を受けており、これを総合して森林の公益的機能という(表2)。 ■木材生産機能 | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 (森林の公益的機能に木材生産機能が含まれると誤解する。) | 3-(3) | | | | |
| 136 | 258 | 図9 | 図全体 | 不正確である。 (保健保安林のデータの扱いと2013年度のデータ) | 3-(1) | | | | |

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

15 枚中 15 枚目

| 受理番号 26-127 | | 学校 高等学校 | 教科 農業 | 種目 農業と環境 | 学年 |
|-------------|------|----------------|---|--|-------|
| 番号 | 指摘箇所 | | 指 摘 事 項 | 指 摘 事 由 | 検定基準 |
| | ページ | 行 | | | |
| 137 | 260 | 図11 (b) (c) | 枝打ち 節のない経済的価値の高い林木を育て、林木間の競争をおさえるため、枯れ枝や樹冠下部の生き枝を取り除く。 間伐 林木の成長を促し、下層の植生 | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 (枝打ちと間伐の意義を誤解する。) | 3-(3) |
| | | | を豊かにして土壌の流失を防ぐため、林木の本数を調整する。 | | |
| 138 | 261 | 30 | 農林漁業家 | 不正確である。 (農林漁業家) | 3-(1) |
| 139 | 262 | 脚注1 | 日本の農村は、平地農業地域・中間農業地域・山間農業地域に分けられる。 | 生徒が誤解するおそれのある表現である。 (日本の農村は、平地農業地域・中間農業地域・山間農業地域の3つだけに分類されると誤解する。) | 3-(3) |
| 140 | 262 | 図14 | 保険休養などの | 誤記である。 | 3-(2) |
| 141 | 296 | 17 - 18 | また、最近では、研究成果や活動成果などをさまざまな団体が協議会、コンクール、コンテストなどを主催している | 生徒にとって理解し難い表現である。 (「研究成果や活動成果などをさまざまな団体が協議会、コンクール、コンテストなどを主催している」が理解し難い。) | 3-(3) |
| 142 | 296 | 表1 | 全国高校生みんなで笑顔プロジェクト | 誤記である。 | 3-(2) |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。